

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290600091		
法人名	社会福祉法人 花の村		
事業所名	グループホーム 合歓の丘		
所在地	島根県江津市後地町2935番地4		
自己評価作成日	平成28年9月12日	評価結果市町村受理日	平成28年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=329

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成28年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内にはグランドゴルフを行える多目的広場があり、地域交流の拠点としての機能を兼ね備えている。
 さらに、同法人の保育園が側にあるので、行事への参加、見学も可能。定期的には園児も遊びに来てくれるなど、交流を持たせてもらっている。また、広い敷地の空きスペースを活用し、花壇、畑を利用者さんと一緒に作ってさまざまな四季折々の花など一緒に栽培し、外出、体を動かす機会を多くとれるよう職員一同意識している。
 入浴は温泉入浴も可能で、利用者さんに、とても喜んでいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「一人を大切に介護」を目指し食事作りや生け花、洗濯物干しなど、できることが継続できるように個別ケアを大切に支援している。法人内の合同行事では地域の人の協力を得てそうめん流しやさんま焼きを楽しみ地域の人と交流している。今年度は外出に力を入れ、住み慣れた地域の催しに参加したり魚釣りや地元の名所や自宅までドライブしたり、寺のイベントに参加しプロの演歌歌手の歌を聞くなどしている。食事は地場で獲れたさわ蟹や柿など旬の食材を味わい昔の生活の話などをして和やかな食事の時間を作っている。職員は花壇や畑を活用し利用者が四季折々を五感で楽しめるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回あるミーティングの際には、事業理念の唱和を必ず行っている。理念を職員間で共有し、それに基づいた行動を意識し、介護の現場に結びつけるようにしている	法人理念の「一人を大切に介護・人生を全うする介護」を共有し、日々利用者の希望を聞き一人ひとりに合わせた個別ケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物、病院受診など利用者と一緒に地域へ出かけ、様々な地区の催し参加へ、希望を募り一緒に出かけ、その都度交流することは継続出来ている	運営推進会議や法人の朝礼で利用者の出身地域の催しの情報を得て参加している。保育園児と昼食を食べたり、新たに6地域の仏教婦人部の協力でさんま焼きや草取りなどあり繋がりが増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法はさまざま出かけた際、目にとまって見ていただいている。キャラバンメイトとして職員も活動実績もあり、出来ていると思う		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、利用者やサービスの実際、取り組み等の状況について、報告や話し合いを行い、そこでいただいたご意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや状況を伝え活発な意見交換の場となっていて、外出先の情報を貰うなどサービスに繋げている。利用者も順番に参加し「ちょっと言わせてください、とても良くしてもらっています」など伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、情報交換、情報の共有は出来ている。また、必要な時は随時連絡を取らせてもらっている	主に運営推進会議で実情を伝え関係を築くように取り組んでいる。災害避難時の助言や、報道される施設に関わる事件に関連して防犯対策の情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車いす、ベット柵、玄関の施錠含め身体拘束、抑制をしないのはもちろん、いかに施錠をしなくて良いかを考えながらケアに取り組んでいる	法人内外の研修に参加し具体的な行為や研修サポート事業を活用し講師を招いて権利擁護や虐待(身体拘束)の理解を深めている。月1回のミーティングで気づきなどを話し合い振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待が見過ごされることがないように職員どおし注意を払い、情報収集も行い、防止に努めている。定期的な研修もあり参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1人利用されている。学ぶ機会は少ないが、研修に参加した職員から職員へ報告もしている。制度の理解は出来ていると思う。制度の必要性が今後も生じた場合は活用したいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約は改定等の際、利用者、家族に丁寧な説明を心がけ理解、納得を得てもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ表せる機会としては運営推進会議、外部評価を想定している。面会時、家族会等でのご意見や要望も運営に反映できるようにしている	日頃から家族や親戚の面会が多く様子を伝え要望を聞いている。毎月たよりを発行し職員が日頃の様子を写真やコメントで伝えている。年2回の家族会でミニ運動会などを企画し交流を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや、随時業務の中で意見や提案をもらい、法人全体のリーダー会議等で提案、反映出来る仕組みがあり活用もしている	毎月のミーティングや日頃から管理者やサブリーダーに提案や要望を伝え業務改善や利用者の望む暮らしに繋がれるように職員間で協力してケアをする体制をとっている。提案から新たに洗濯物干し場ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが意欲的に働けるよう職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会も設置されており、法人内外の研修を受ける機会、職員を育てる取り組みを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会は少ない。ネットワーク作りや、勉強会などサービスの質の向上とはなっていない現状はある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談、見学の際などは、場所、時間含め信頼関係づくりに配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際は場所、時間を含め信頼関係づくりに配慮しており、実際連絡なども継続的に行っており、信頼関係は築けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	紙パンツ使用を布パンツへ変更し、支援を行うなどしている。対応は出来ている。その後も家族様来られた際には最近の状況を伝えご意見を伺いながら支援することは出来ている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必ず何か行う際は一緒に行動し、役割をもっといただくよう支援している。暮らしを共にする者同士の関係は築けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子をお伝えしたり、ご本人さんからも電話できる環境も整っている。面会、家族会などの機会も大切に、絆を大切にしながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ地域の方が、併設の小規模多機能施設へ来られた時など、行き来して交流を持つようにしたり、本人が暮らしておられた地域のお店にも買物へ出かけたりしている	一人ひとりの住み慣れた地域の催しに参加して近所の人との繋がりを大切にしている。盆には利用者の自宅前まで外出したり、日頃から利用者や昔の生活や家族の話題をして関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	可能な限り、孤立しないよう間に入り利用者同士が関わり合いが出来るように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、本人・家族の経過をフォローし、支援するつもりで業務にあたっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努め、決して無理強いせず、本人さんらしい生活が出来るようにしている	職員は出勤時、利用者一人ひとりに声をかけたり手を握るなどスキンシップを図って関係作りをし意向の把握に努めている。表情や様子を細かく把握し本人本位の暮らしになるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回だけでなく、面会時などにも情報収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で、随時情報を共有し、小さな変化にも気付けるよう現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に情報が共有できるよう、職員同士の連絡ノートを設けている。また、随時口頭での話し合いも出来ており、日々の支援、介護計画作成の際に活かしている	面会時や電話で家族や親戚の意向の把握に努めている。利用者が望む暮らしに繋げた介護計画を作成し、日々プランに沿った支援の確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践、結果、気づき等、日誌や個別記録、連絡ノートへ記入し情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないように、様々な角度からのアプローチに心がけ、常に新しいアイデアを出し合い利用者さんの五感を刺激できるサービスになるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の能力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援は行っているが、地域資源の活用は十分とはいえないと思う		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と常に連携をとり、本人、家族とも話し合いながら適切な医療が受けられるように支援している(定期受診、定期往診、緊急対応など)	利用者や家族と話し合い訪問診療や受診対応をしている。主治医は看取りの理解や協力があり夜間や緊急時も相談が出来る関係を築き支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの職員には看護師は配置されていないが、併設の小規模多機能施設と側の同法人内の看護師との連携はとれており、適正な受診や看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談は出来ている。又、出来るだけ早期に退院できるように関係者との関係づくりにも努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族等と話し合い事業所で出来る事を十分説明しながら方針を共有し、チームでの支援も出来ている。実際一例あった	家族や主治医、事業所と話し合い事業所でできることを伝えチームで支援に取り組んでいる。主治医から状況に合わせた指示や度々の往診があり、利用者や家族、全職員が納得した支援をすることができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の方法等、年1回は行えるようにはなっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は定期的に避難訓練を行っている。協力体制も整っている	併設している事業所と合同で避難訓練を行い協力体制を築き職員の役割の理解もしている。夜間、仏壇や風呂場などの火気点検を実施している。地域の人に訓練の参加の声かけをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修なども行い、人格を尊重した言葉かけや対応に心がけている	年に1回、人権や接遇の施設内研修に参加し理解を深めて実践に繋げている。女性がトイレに行く時には同性対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オープン、クローズの質問を使い分け出来るだけ自己決定が出来るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に沿って支援するように努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食ごとに一緒に準備している。好みや力も活かしている	利用者は調理や下ごしらえ、食器洗いなど一人ひとりの力を活かしながら職員と一緒にしている。旬の蟹や栗、松茸、柿など差し入れがあり、食材の話しをしながら楽しい雰囲気作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援に心がけているが、基本的には同じ料理となっている部分は大きい。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否等ある方もおられ今後の課題でもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツから布パンツへとなるよう職員間で排泄パターン等共有している。アセスメントを行い、さらに人数を増やしていきたい	一人ひとりの排泄状況や思いを大切にして支援し、紙パンツから布パンツとなるように全職員で話し合い声かけや関わりを増やし自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分摂取に努め、出来るだけ自然排便を促しているが、食事の内容に関してはまだまだ工夫が必要と感じている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	シャワー浴は何時でも出来るようにしているが、温泉入浴については時間が決まっている	殆どの利用者が法人にある温泉を利用している。場所が離れているため車で送迎しているが、入浴後はドライブを楽しんでいる。重度の人やその日の体調に合わせてシャワー浴や清拭で柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の温度、湿度に気をつけたり昼寝を少なくしたり工夫はしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクター(薬剤師含む)との連携もとれており、薬の効能などファイルに個別に綴じ、すぐ確認できるようになっている。毎月のミーティングの際も職員全員で効能の学習もしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ、花壇の世話、料理、工作、頭の体操など一人ひとりに合った役割、楽しみ、気分転換に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気軽に外かけて頂ける様努めている。最近では自発的に希望もおっしゃられるようになってきている	職員は外出に力を入れ利用者の希望に合わせて個別支援に取り組んでいる。庭やテラスの花の世話などで五感を大切に支援している。重度の人でも専用車で外出している。外泊など家族の協力も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は職員で行っているが、要望があれば一緒に買物に行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ配慮、努力はしている。温度、湿度、臭いなど。特に季節の花を生けたり季節感にも配慮はしている	所々に利用者の日頃の笑顔の写真や季節の花を飾っている。庭ではイチゴや色とりどりの花や稲を育てるなど、生活感や季節感を大切に環境作りに取り組んでいる。談話コーナーは家族と寛ぐ場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーを設けているが、さらなる改善工夫も今後行っていきたい		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを活かし居心地よく過ごしていただけるよう努めている	テレビや机、椅子、棚など使い慣れた家具を持参している。写真や作品が飾ってあり、遺影に水を供える人、植木鉢に水やりをする人など一人ひとりが居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、わかることを活かした上で、安全にも配慮できるよう支援している		